

# 日本基督教団信仰告白について

小鮎 實牧師

(日本基督教団(口語)式文より)

< 洗礼式 >

誓 約

問 あなた(がた)は聖書に基き、日本基督教団信仰告白に言いあらわされた信仰を告白しますか。 日本基督教団信仰告白の学びの必要性

答 告白します。

問 あなた(がた)は主イエス・キリストの救いのしるしであるバプテスマを受けることを心から願いますか。 救いについて、バプテスマについて

答 願います。

問 あなた(がた)は今後、主の聖餐を重んじて誠実にこれにあずかり、日本基督教団の教憲・教規に従い、この教会の会員としてふさわしい生活をし、また教会の定めに従って忠実にその責務を果たすことを志しますか。

主の聖餐、教憲・教規および諸規則、  
教会員としての義務と責任(生活綱領、信徒必携)

答 志します。

< 日本基督教団信仰告白 > の学び

我らは信じかつ告白す。

**. 信仰(信じる)・告白(公に言い表す)**

信じること(心で信じる) 頭で信じるのではない。頭 = 理解する

「信じる事は、決断であり、行動であり、頭だけの理解ではない」

聖霊の働きによって、信じさせられる。

告白することの大切さ(口で、またその他で(口の不自由な方))

「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」(ローマ 10:9-10)

信じていなければ、告白はできない。

旧新約聖書は、ア・神の靈感によりて成り、イ・キリストを証し、ウ・福音の真理を示し、エ・教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救いにつきて、全き知識を我らに与ふる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり。

## ・聖書(旧・新約聖書)

聖書(旧新約聖書)をどのように受け止めるかの問題

ア．聖書が神の靈感によって成ったものであると信じますか。

「聖書はすべて神の霊の導きの下に(神の靈感を受けて)書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」(2テモ3:16)

ファンダメンタリスト 逐語靈感説(×)

イ．聖書はキリスト(イエス様がキリスト(救い主)である事)を証するものであると信じますか。

「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたし(イエス)について証しをするものだ。」(ヨハ5:39)

「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、  
天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(使徒4:12)

ウ．聖書は福音の真理を示すものであると信じますか。

福音 = よい知らせ

神の国の福音 - 神の国がイエス様と共にやって来た。

救いの福音 - イエス様をキリスト(救い主)と信じる者は救われる。

エ．聖書を教会の拠るべき唯一の正典(聖典)であると信じますか。

397年 カルタゴ公会議(旧約・新約聖書正典決定。外典も付加)

聖書は神様や救いについて私たちに十分な情報を与えている神の言であると信じますか。

神様の言葉(御言葉)としての聖書(神様の御心、御旨を語っている)

聖書を私たちの「信仰と生活との誤りなき規範」としていませんか。

聖書に基づく信仰生活(=日常生活)の問題 7. 2テモ3:16

### 聖書は信仰と生活との誤りなき規範か？

(問題点)

差別的教え？(男性中心的表現、女性差別的表現、障害者差別的表現)

この世の権威を肯定？

『女はだれでも祈ったり、預言したりする際に、頭に物をかぶらないなら、その頭を侮辱することになります。それは、髪をそり落としたのと同じだからです。女が頭に物をかぶらないなら、髪を切ってしまいなさい。女にとって髪を切ったり、そり落としたりするのが恥ずかしいことなら、頭に物をかぶるべきです。男は神の姿と栄光を映す者ですから、頭に物をかぶるべきではありません。しかし、女は男の栄光を映す者です。というのは、男が女から出て来たのではなく、女が男から出て来たのだし、男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。だから、女は天使たちのために、頭に力の印をかぶるべきです。いづれにせよ、主においては、男なしに女はなく、女なしに男はありません。それは女が男から出たように、男も女から生まれ、また、すべてのものが神から出ているからです。』(1コリント11:5-12) 男性中心的発想？ 時代的背景・制約、秩序の問題

『妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕え

るように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。』(1コリ 5:22-24)

男性中心的発想？ 時代的制約、秩序の問題

『婦人が教えたり、男の上に立ったりするのを、わたしは許しません。むしろ、静かにしているべきです。』(1テモ 2:12) 女性教職を否定？ 時代的制約

『あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。』

(ガラテヤ 3:26-28)

『一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。』(1コリント 12:13)

『古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。』

(コロサイ 3:9b-11)

『だれでも、障害のある者、すなわち、目や足の不自由な者、鼻に欠陥のある者、手足の不釣り合いの者、手足の折れた者、背中にこぶのある者、目が弱く欠陥のある者、できものや疥癬のある者、睪丸のつぶれた者など、祭司アロンの子孫のうちで、以上の障害のある者はだれでも、主に燃やしてささげる献げ物の務めをしてはならない。彼には障害があるから、神に食物をささげる務めをしてはならない。しかし、神の食物としてささげられたものは、神聖なる物も聖なる献げ物も食べることができる。ただし、彼には障害があるから、垂れ幕の前に進み出たり、祭壇に近づいたりして、わたしの聖所を汚してはならない。わたしが、それらを聖別した主だからである。』(レビ 21:18-23) 障害者の教職を否定？ 時代的制約

『イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放(自由)を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし(解放し)、主の恵みの年を告げるためである。」(イザヤ 61:1-2)

イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。』(ルカ 4:16-21)

『イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳

の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」(マタイ 11:4-6)

『人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。』(ロマ 13:1)  
この世の権威を肯定？

『彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」(使徒 5:27-29)

『イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(ヨハネ 8:31-32)

『主の霊のおられるところに自由があります。』(2コリント 3:17)

『この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身に(解放)してくださいましたのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の轡に二度とつながれてはなりません。』(ガラテヤ 5:1)

『自由な人として生活しなさい。しかし、その自由を、悪事を覆い隠す手だてとせず、神の僕として行動しなさい。』(1ペテロ 2:16)

主イエス・キリストによりて啓示せられ、聖書において証せらるる唯一の神は、父・子・聖霊なる、三位一体の神にていましたまふ。御子は我ら罪人の救いのために人と成り、十字架にかけられ、ひとたび己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖ひとなりたまへり。

### ・三位一体の神

神は「父・子・聖霊」という三つの「ペルソナ」(persona)と一つの実体において存在するという教理

ラテン語の「persona」には、mask,part,character,personality 等の意味がある。

主イエス・キリストを神様を啓示した神の御子と信じますか。

(主イエス・キリストを神様と信じますか)

「わたしを見た者は、父(なる神)を見たのだ。」(ヨハネ14:9)

イエス・キリストを通して神様を見る。キリスト教

「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。」(ロマ 1:4)

「あなたは「神は唯一だ」と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています。」(ヤコブ 2:19)

聖霊は神様の具体的な働きとして、神様であると信じますか。

「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。」(マタイ 1:18)

「神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」(ヨハネ 4:24)

「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。」(2テモテ 1:14)

父なる神様、子なるキリスト、聖霊を三位一体の神様と信じますか。

「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」(マタイ 28:19)

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。」(2コリント 13:13)

## ．御子・主イエス・キリスト

イエス様が十字架にかけられたのは、私(たち)の罪のためであると信じますか。

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。」(1コリント 15:3-5)

イエス様の十字架によって私たちの罪が贖われたと信じますか。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(1ヨハネ 4:10)

神様は人間をご自身の像(かたち)に似せて創造され、人間に自由意志を与えられました。これは人間が自主的に神様を愛することを期待されたからです。しかし、人間は神様を無視し、自由意志を用いて神様に反抗しました。この人間の神様に対する反逆、不従順、不信仰を「罪」(的外れな人間のあり方)といいます。このように罪深い人間はこのままの状態では、聖にして義なる神様の前に審かれなくてはならないのです。このような状態の人間を、そのままに受け入れることは神様の義が許しません。かといって、そのままにしておくことは神様の愛が許しません。

そこで聖にして義なる神様が罪人の人間を赦し・救うために、神の独り子、イエス・キリストを十字架につけ、私たちが当然受けなければならない罪の刑罰をキリストに負わせ、罪の清算をつけてくださったのです。それこそ「ひとり子を賜ったほどにこの世を愛してくださった」(ヨハネ 3:16)神様の深い愛なのです。

私たちがこの神様の愛にふれ、自分の罪深さを知って悔い改め、神様の愛を受け入れ、神様に従う決心をする時、私たちの罪がゆるされ、神の子となる特権が与えられ、神様の前に真実の人間となることが出来るのです。私たちは十字架にかけられ、復活されたキリストを信じて古い自分に死に、新しい生命に生きるのです。

神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信ずる信仰により、我らの罪を赦して義としたまふ。この変らざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したまふ。

## ・救い

神様が私たちを選んで下さったのは、神様の恵みだと信じますか。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」

(ヨハ 15:16)

「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。」(1 コリント 1:26-29)

イエス様をキリスト(私(たち)の救い主)と信じますか。

イエス様をキリスト(救い主)と信じる信仰によって、私たちは罪赦され義とされると信じますか。

「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシア(キリスト・救い主)であると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」(ヨハ 20:31)

「この方(イエス・キリスト)による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです。」(使徒 13:38-39) 神様の恵み、賜物

聖書の「救い」は「罪の赦し」(神様に義とされること)

「救い」= 神様との和解 神様との関係の回復 義とされる 永遠の命を受ける

「それで今や、わたしたちはキリストの血(十字架)によって義とされたのですから、キリストによって神の怒り(裁き)から救われるのは、なおさらのことです。敵であったときでさえ(神様との関係が切れていたとき - 罪人)、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。」(ロマ 5:9-10)

## ・聖霊の働き(神様の具体的な働き)

私たちを潔め、義の果を結ばせるのは聖霊の働きであると信じますか。

人間の働き・人間の努力の限界

聖霊の働きによって、神様はその御業を成就しようとしておられる事を信じますか。

「これに対して、霊の結ぶ実(聖霊の働き)は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません」(ガラテヤ 5:22-23)

教会は主キリストの体にして、恵みにより召された者の集いなり。教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝へ、バプテスマと主の晩餐との聖礼典を執り行ひ、愛のわざに励みつつ、主の再び来りたまふを待ち望む。

## ・教会

教会 (ekklhsia エクレシア) を主イエス・キリストの体であると信じますか。

(あなたは教会の一員であるという自覚をもっていますか。)

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。」(1 コリント 12:12)

「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」

(1 コリント 12:27)

一人ひとりの存在、働き・機能(手、足、目、耳...) 多様性、必要性

しかし、全体として一つ(キリストの体) 統一性

そこには秩序、ルールがある(教会の秩序、ルール、規則)

「また、競技に参加する者は、規則に従って競技をしないならば、栄冠を受けることができません。」(1 テモ 2:5)

そういう中で、一人ひとりを大切にする 連帯性

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」(1 コリント 12:26)

教会は神様の恵みによって召された集い(共同体)であると信じますか。

「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。」(1 コリント 1:26-29) 神様の恵み

## < 公同の礼拝、主日礼拝、聖日礼拝 >

あなたは公の礼拝を守りますか。

「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。

今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならぬ。」(ヨハ 4:23-24)

## < 福 音 >

あなたは福音を正しく宣べ伝えますか。

「福音」(喜ばしい知らせ、良い知らせ)

イエス様の福音理解　神の国がイエス様と共にやって来たという良い知らせ  
「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、  
『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた。」  
(マルコ 1:14-15)

「イエスは言われた。『ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。  
わたしはそのために遣わされたのだ。』」(ルカ 4:43)

「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続け  
られた。」(ルカ 8:1)

パウロの福音理解　イエス様の「十字架と復活」により、私たち(罪人)に「救い」  
がもたらされたという良い知らせ　「救い」の項参照

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者  
には神の力です。」(1コリント 1:18)

キリスト教の福音理解　イエス様をキリスト(救い主)と告白し、イエス様の  
「十字架と復活」による「救い」(義とされる)を信じるとき(バプテスマ)、私たちは新  
しく生まれ変わり(新生・復活)、「神の国」に受け入れられるという良い知らせ  
イエス様と共に「神の国」は来たのである。

「イエスは答えて言われた。『はつきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神  
の国を見ることはできない。』」(ヨハネ 3:3)

「イエスはお答えになった。『はつきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれ  
なければ、神の国に入ることはできない。』」(ヨハネ 3:5)

「ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われ  
た。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるもの  
でもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」　(ルカ 17:20-21)

#### < 聖礼典(洗礼(バプテスマ)・聖餐式) >

あなたはバプテスマを受けることを心から願いますか。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦して  
いただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」(使徒 2:38)

あなたは、感謝と喜びをもって主の晩餐(聖餐)に与りますか。

私のためにイエス様は肉を裂かれた。私のためにイエス様は血を流された。

すべて私の「救い」のため。私が救われるため。　イエス様の記念

「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、  
主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「こ  
れは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いな  
さい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わた  
しの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのよ  
うに行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を  
飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」(1コリント 11:23-26)

再臨(救いの完成)のときまで



## <愛の業>

あなたは愛のわざに励んでいますか。

「律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。」(ガラヤ 5:14)

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

「善いサマリア人」のたとえ(ルカ 10:25-37)

「すべての民族を裁く」(マタイ 25:31-46)

羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。

『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』(マタイ 25:40) 神の祝福

## 生活綱領

われわれは、神の恵みにより父と子と聖霊との名においてバプテスマをうけ主の体なる教会に入れられた者であるから、すべての不義と迷信とをしりぞけ、互いに主にある兄弟姉妹の交わりを厚うし、常に神の栄光のあらわれるように祈り、つぎのことを相共につとめる。

1. 教会の秩序を守り、その教えと訓練とに従い、聖日礼拝・祈禱会その他の集会を重んじ、聖餐にあずかり、伝道に励み、時と財と力とをささげて教会の維持発展につくすこと。
2. 日々聖書に親しみ、常に祈り、敬虔・純潔・節制・勤労の生涯を全うすること。
3. 家庭の礼拝を重んじ、家族の和合を尊び、子女を信仰に導き、一家そろって神につかえること。
4. 互いに人格を重んじ、隣人を愛し、社会の福祉のために労し、キリストの正義と愛とがあまねく世に行われるようにすること。
5. 神の御旨に従って、国家の道義を高め、国際正義をの實現をはかり、世界平和の達成を期すること。

願わくは神、われわれを憐れみ、この志を遂げさせたまわんことを。 アーメン

## <キリストの再臨>

あなたは主イエス・キリストの再臨を待ち望んでいますか。

「ガラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」(使徒 1:11)

「キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。」(ヘブライ 9:28)

「わたしたちの主イエス・キリストが再び来られるときまで、おちどなく、非難されないように、この掟を守りなさい。」(1テモテ 6:14)

「以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。」(黙示録 22:20)  
「マラナ・タ(主よ、来てください)。」(1コリント 16:22)

我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す。

代々の聖徒と共に - 歴史の中にある教会、普遍性、連帯性  
使徒信条(世界教会信条、基本信条)の告白 (讃 21 p.146 9 3-4)  
古ローマ信条(2世紀後半?) 使徒信条(ラテン語)  
バプテスマ教育の中から生まれる。長い年月をかけて形成  
5世紀頃 12世紀(公式のものとなる)  
ニケア信条(ニカイア・コンスタンティノポリス信条)(讃 21 p.147)  
ニカイア信条 325年 787年 三位一体論、キリスト論  
コンスタンティノポリス信条 アナテマ(呪詛)を削除  
381年 553年 680~681年 869~870年(西方教会)  
879~880年(東方教会)

<激動の4世紀>

合法宗教化 正統教義決定 国教化 聖書正典決定  
313年 キリスト教公認  
325年 ニカイア公会議  
392年 国教(ローマ帝国)となる  
397年 カルタゴ公会議(聖書正典決定)

<使徒信条>

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

「神」

創造主信仰 被造物 (創世記 1章~2章)

全能(の父)

「人間にはできないことも、神にはできる」(肋 18:27)

「神は何でもできる」(マコ 10:27)

父 人間の父親(起源) 人間は兄弟姉妹

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

「イエス・キリスト」

神の独り子 人であり、神である

我らの主 私たちが従うべき者

イエス=キリスト(救い主)

主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受

け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまへり、

「キリストの生涯」

誕生 苦難（十字架） 死 復活 昇天（神の右の座、権威の象徴）

かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。

「再臨、最後の審判」

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。

「聖霊」 聖霊の働き

「教会」 公同の教会（神様（聖霊）が働く場所） キリストの体

「聖徒の交わり」 神様のものとされた人間 横の関係

「罪の赦し」 神様との関係が回復 縦の関係

「身体のよみがえり」 復活の希望

「永遠の生命」 希望（永遠を目標とする）

有限な人間が「永遠を生きる」（永遠なるもの（神様）との関係の中に生きる）

アーメン（「然り、本当にその通りである」の意）

（用語解説参照）

ヘブライ語・アラム語で「真実に」「確かに」などの意味。新約では、ギリシア語に音訳されて用いられた。会話の中で相手に賛同するとき、集会で祈りに唱和するときなどに用いる（申 27：15，1 コリ 14：16）。イエスの言葉の中には「アーメン」あるいは「アーメン，アーメン」で始まる表現が多いが、新共同訳では大体、「はっきりしておく」（マタ 5：18，ヨハ 1：51 など）と訳した。これは主として弟子たちに対する宣言の場合、特に注意を促す表現であろう。また、ヨハネの黙示録 3：14 にはイエスの名として用いられている。

<ラテン語・使徒信条>

Credo in Deum, Patrem omnipotentem, Creatorem caeli et terrae,  
et in Iesum Christum, Filium Eius unicum, Dominum nostrum, qui conceptus est  
de Spiritu Sancto, natus ex Maria Virgine, passus sub Pontio Pilato, crucifixus,  
mortuus, et sepultus, descendit ad inferos, tertia die resurrexit a mortuis, ascendit  
ad caelos, sedet ad dexteram Patris omnipotentis, inde venturus est iudicare vivos  
et mortuos.

Credo in Spiritum Sanctum, sanctam Ecclesiam catholicam, sanctorum  
communione, remissionem peccatorum, carnis resurrectionem, vitam aeternam.

Amen

< Apostles' Creed > ( 旧 )

1. I believe in God the Father, Almighty, Maker of heaven and earth:
2. And in Jesus Christ, his only begotten Son, our Lord:
3. Who was conceived by the Holy Ghost, born of the Virgin Mary:
4. Suffered under Pontius Pilate; was crucified, dead and buried: He descended into hell:
5. The third day he rose again from the dead:
6. He ascended into heaven, and sits at the right hand of God the Father Almighty:
7. From thence he shall come to judge the quick and the dead:
8. I believe in the Holy Ghost:
9. I believe in the holy catholic church: the communion of saints:
10. The forgiveness of sins:
11. The resurrection of the body:
12. And the life everlasting. Amen.

< Apostles' Creed > ( 新 ? )

I believe in God, the Father Almighty,  
the Creator of heaven and earth,  
and in Jesus Christ, His only Son, our Lord:  
Who was conceived of the Holy Spirit,  
born of the Virgin Mary,  
suffered under Pontius Pilate,  
was crucified, died, and was buried.  
He descended into hell. [See Calvin]  
The third day He arose again from the dead.  
He ascended into heaven  
and sits at the right hand of God the Father Almighty,  
whence He shall come to judge the living and the dead.  
I believe in the Holy Spirit, the holy \*catholic church,  
the communion of saints,  
the forgiveness of sins,  
the resurrection of the body,  
and life everlasting.  
Amen.